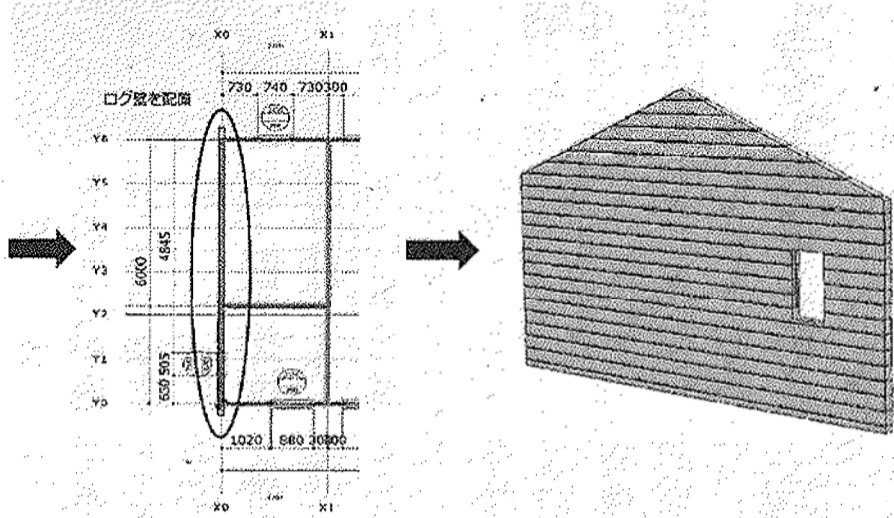


ログハウスCADで特許取得

ネットイーグル



伏図画面でログ壁を配置するだけで屋根の形状に合わせてログ材が自動で積み上がる

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、非住宅木造プレカットCAD「XF15」に搭載された製作金物の自動設計プログラムに続き、ログハウスCADの構造設計プログラムでも特許を取得した。ログ材の断面（グループ）形状、開口部の収まりをマスタ登録しておけば、伏図画面でログ壁、開口部を配置するだけで、ログ材が自動で積み上がり、木造軸組プレカットの横架材加工機でCAD/CAM加工できる。

ログ材が自動配置、CAD/CAMで加工

ログハウスの間仕切り利用も可能。木拾い積算、金物マシンカットログの接合部をCAD/CAMで加工するシステムで、製作金物やダボのボルト穴も入力、加工できる。2×4工法との混構造や2×4パネ

ルの間仕切り利用も可能。木拾い積算、金物積算も自動化され、木造軸組、2×4プレカット並みの合理化が可能になる。ログ部材は、登録したログのサイズや形状に基づき、平面図から自動生成される。具体的には、物件の初期設定を入力したのち、間取り、開口、屋根などの意匠情報を入力。ログ壁を配置すると、指定された高さ、屋根形状に合わせてログ壁が自動で積み上がり、ノッチ、ハーフノッチ、ログ壁交差部の伸びも自動生成される。同社独自の断面図入力機能を搭載し、断面図で確認しながらの追加入力も可能。様々なパターンのノッチ加工、窓回りのキー溝加工、幕板の欠き込み、土台の鎌継ぎ、コンセントボックス、電気配線穴なども自在に入力、加工できる。

XF15で動作するため、既製品の金物はもとより、製作金物も自在に入力できる。開口部や接合部の両脇に通すダボ穴も「ラグスクリュー」で「連続」「千鳥」を選べば、自動で配置される。接合部の収まりは3次元パースであらゆる角度から確認できる。同社では「ログハウスの設計が大幅に合理化でき、ミスを減らせるうえ、修正も簡単になる。在来や2×4との混構造、集成材の部分利用などログハウスで設計できる範囲も広がる。多くの場合、ログハウスはこれまで2次元のCADで設計し、集成材はプレカット工場、2×4はパネル工場、ログは手加工

とばらばらに作っていた。ログハウスCADを使えば、1つのCADで設計し、1つの工場加工、出荷することも可能になる」と話す。